六郷の総鎮守

六郷神社崇敬会会報

27

平成14年12月発行

穴をあけて綴じてください

都には花のなごりをとどめおきて
けふ下芝につどふしら雪

源　頼義朝臣「武家百人一首」より

六郷八幡宮を創建した源（みなもとの）頼義（よりよし）公について

社紀によれば六郷神社は、平安時代後期の武将・源頼義によって天喜（てんぎ）五年（１０５７）に創建された八幡宮と伝えられる。

源頼義は早くより射芸の達人として知られ、相模守・武蔵守・下野守などを歴任。天喜元年には鎮守府将軍となり、奥六郡の俘囚安倍貞任・宗任の反乱を鎮定した。この前九年の役の功により頼義は伊予守に、その子義家は出羽守に任ぜられた。

初詣

崇敬会会員の昇殿参拝

平成15年1月3日　午前10時30分（第1回）　午前11時30分（第2回）

1月3日の午前10時30分と11時30分の2回、崇敬会会員とその家族にかぎり、昇殿参拝の式をおこない、神社から神酒と特別な御礼が授与されます。

崇敬会では、新春記帳所を設けますので、ご記帳のうえ、御供物をお受け取りください。なお境内には、甘酒進上の席も用意いたします。多数ご参拝ください。

官幣中社　金鑽神社境内真景

武蔵国二之宮 金鑽（かなさな）神社参拝記

宮崎　豊

12月7日（土）午前7時20分出発。参加者32名。曇り空であったが、さして寒くなく、たびプラザTOKYOのバスで一路関越道へ向かう。崇敬会恒例の著名な神社参拝、今年は埼玉県児玉郡神川村に鎮座する武蔵二之宮（旧官幣中社）の金鑽神社である。

神体山としての御室山

バスは本庄児玉ICを下りて、山に囲まれたお社（やしろ）に到着する。いかにも古い歴史をもつたたずまいである。さっそく昇殿正式参拝。宮司さんから神社にまつわるいろいろなお話があった。当社には本殿がなく、御室山（みむろやま）をご神体として拝殿のみが設けられている。大和の国の三輪神社とともにその社殿形式に注目されたいとのこと。なお「金鑽」の〝さな〟は、なかなか読めなかったが、由緒によれば、日本武尊が倭姫命から授かった〝火鑽金（ひきりかね）〟を、神宝にしている故事にもとづくという。

車窓から冬桜を見る

参拝を終えて帰途についたとき、暖冬のため三波川の冬桜はすでに散ってしまったとあきらめていた冬桜が、途中の神流川（かんながわ）べりに一本だけ咲いているのを見て、思わず一同歓声をあげた。

昼食は名物の忠七めし

昼食は、和紙の産地として知られる小川町の割烹二葉の「忠七めし」。これは幕末に山岡鉄舟が忠七というこの店の主人に伝えたのが始まりといわれる。いってみれば単なるお茶漬けだが、さすがに滋味があり、箱膳に小さな料理がきれいにならんでいるのも楽しかった。

〝小江戸〟川越散策

最後に立ち寄ったのは〝小江戸〟といわれ、多くの土蔵づくりの町並みが残っている川越の街。小路の奥の珍しい〝時を告げる櫓〟を見ていたら、ちょうど3時の鐘がなった。いろいろな土産物を売るにぎやかな街を、三々五々ぶらついたり、買い物をしたりして、集合場所の〝札の辻〟から帰途についたのは、午後3時15分であった。

そのころから雨になったが、それほどの影響はなかった。しかし首都高速に入ってからは師走のこととて、たいへんな渋滞に巻き込まれ、帰着は予定時刻より約1時間も遅れてしまった。それにしても、楽しく無事に旅行計画を終了できたことは、たいへん結構なことであった。

幹事としてお骨折りいただいた吉田恒男・八代恵子・遠藤富美子のみなさんに、厚くお礼を申し上げたい。

平野順治

回想六郷の四季

春

川の岸辺に葦の芽がむらだつと、水の匂いもやさしくなる。
行基菩薩が開いたという名刹・古川薬師の花まつりの頃、
広い河原は一面に桃紅李白の花に彩られ、雲雀の声が朗らかに天にひびく。
多摩川に抱きかかえられている水光る里・六郷は、
梨と桃の名産地として知られていたが、水にある光の明るさ、
今もなお長堤撩乱の桜狩りに酔う人が少なくない。

夏

関東三大船祭の一つといわれた六郷八幡の曳船祭は、
宮神輿を船に奉じて羽田へ水上渡御する勇壮きわまりないパレードであった。
太鼓の胴をきりりと締めて、青葉風に踊る少年獅子舞の伝承もゆかしい。
夏祭りの興奮が醒めゆくとき、
河原には宵待草がいっせいに咲き乱れ、
川開きの花火が、人びとの明日への夢と活力をかきたてるのであった。

秋

江戸の昔より百八十六年の長きに及ぶ東海道・六郷の渡しに
終止符を打ったのは明治七年、地元の鈴木左内が架けた左内橋であった。
六郷橋畔の夕照は、城南八景の一つに数えられ、
暮れなずむ空に浮き立つ本門寺の五重塔も美しかった。
白銀の芒の穂波を分けて、川面にきらめく満月の光に、
盞一盞、風流韻事の集いが催されたのも、さして遠い日のことではない。

冬

正月、少年たちはこぞって六郷特産のトンビ凧を大空にあげ、その技を競い合った。
橋のたもとには、奥多摩から下ってきた青梅材の筏が繋留され、
四軒の筏宿の手を経て、それらは、八幡丸と称する六郷の船によって、深川の木場などへと送られていった。
風の強い冬の朝、
丹沢山塊の上にそびえる冠雪の富士ほど見事なものはないが、
かつては秩父の武甲山や南アルプスの白峰三山まで望み得たという。

◆七草流鏑馬祭（ななくさやぶさめさい）

東京都の無形民俗文化財に指定されている子供流鏑馬は、1月7日午後1時より男の児の開運・健康・出世を祈って、境内の射場で行われます。雨天決行。

◆新入会員紹介

南二・安田清子　南三・山口よし子　東二・谷川さき子　今村将利　仲一・三池湧恵　西一・川　義光　池上四・松原由希子

◆平成14年度年会費のお願い

年会費（平成14年4月1日より15年3月31日までの分）を、お手数でも同封の振替用紙でお納めください。社務所でも受けます。

発行＝六郷神社崇敬会
〒144－0046 大田区東六郷三－十－十八
六郷神社社務所内
電話 〇三－三七三一－二八八九
振替 〇〇一九〇－六－一三五五三
編集＝平野順治